

令和5年度 第3回小牧市文化財保護審議会会議録

日 時：令和6年2月13日（火）午前10時

場 所：小牧市役所 本庁舎4階 404会議室

出席者：〔委 員〕小野委員、池田委員、藤堂委員、中嶋委員、村松委員、富嶋委員

〔事務局〕中川教育長、伊藤教育部長、矢本教育部次長、武市文化財課長、

浅野専門員、鈴木主事補、

株式会社トータルメディア開発研究所 吉原氏

傍聴者：なし

【事務局（武市）】

定刻となりましたので、ただいまより令和5年度第3回小牧市文化財保護審議会を開催いたします。

皆様におかれましては、本日は、大変お忙しい中ご参加いただきましてありがとうございます。

会議を始める前にご報告いたします。

本日、越川委員、増田委員、西川委員より欠席のご連絡をいただいております。

また、議題となります（仮称）歴史民俗資料展示施設基本構想策定業務を受託しております株式会社トータルメディア開発研究所より吉原氏も同席しておりますので、よろしく願いいたします。

また、この会議は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づきまして会議を公開いたしておりますが、本日の傍聴者はございません。

議事は音声録音し、議事録は、発言内容、お名前とも小牧市のホームページにて公開させていただきますので、ご承知おきを願いたします。

次に、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

あらかじめお送りさせていただきました、次第と資料1、資料2、それから資料3、本日机の上に置かせていただきました議題（1）（仮称）歴史民俗資料展示施設基本構想・基本計画についての追加資料1ー1、A3のものでございます。以上となります。

不足等がありましたらお申し出いただきたいと思います。よろしかったでしょうか。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

1 教育長挨拶

【事務局（武市）】

次第1といたしまして、教育長の中川よりご挨拶を申し上げます。

【中川教育長】

おはようございます。

本日は、委員の皆様方におかれましては、本当にお忙しい中、文化財保護審議会にご出席をいただきまして、また、日頃から本市の文化財保護行政にご支援を賜りまして、重ねてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

また、先月、1月19日に行われました本審議会による現地調査では、北外山の薬師寺、また久保一色の真福寺をご調査いただき、ありがとうございました。

調査におきましては、市の指定にまでは至らないものの所蔵する寺院や、その地域の歴史を物語る多くの書画や仏像などを所有していることが確認できまして、小牧市の歴史にとって貴重なデータを収集することができたものと考えておる次第です。

さて、本日の議題につきましては、昨年10月に開催いたしました第2回の本審議会において各委員の皆様方からいただきましたご意見をもとに、先ほども出てまいりましたが、「（仮称）歴史民俗資料展示施設基本構想」の内容を修正いたしましたので、改めてご審議いただければと思う次第です。また、今年度の文化財に関する取組点検と来年度の重点施策についてご審議いただきたいと思います。

限られた時間ではございますが、委員の皆様方におかれましては、慎重審議、そして忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

この後、どうぞよろしくお願いいたします。

2 会長挨拶

【事務局（武市）】

続きまして、次第2、小野会長よりご挨拶をお願いいたします。

【小野会長】

私は、今年やっぱり、お正月早々のあの能登半島の地震で文化財の多くが被害に遭った、国指定それから自治体の指定、登録も含めて300件以上も被害があった。それから、これも個人的にすごくショックだったのが、先月でしたか、岐阜の海津市の圓滿寺の仏像が11体火災で焼けてしまったというのがあって。それが非常にショッキングに印象に残りました。

やはりいつどこで何があるか分からないというのが非常に強くて。壊れてしまって

というのは大変なんですけれども、特に能登半島の場合だと、家が壊れて、文書とかそういうものがもう汚くなって捨てられるっていう、そういう状態が非常に目立ち、だから、汚いから捨てるのではなくて、ひとまず博物館に預けるとか教育委員会に連絡するとか、何かそういうネットワークがないと。今後小牧市も、いざというときにはこちらに連絡するとか何かつくっておかないと心配だなという気持ちを今回ので思った次第です。

今回文化財視察なども行っておりますけれども、また後ほど皆さんといろいろ議論できればと思っております。

本日、どうぞよろしく願いいたします。

【事務局（武市）】

ありがとうございました。

それでは、早速議事に入っていきたいと思います。

ここからの進行は、小野会長、よろしく願いいたします。

3 議題

【小野会長】

それでは、次第の3. 議題に入ります。

(1) (仮称) 歴史民俗資料展示施設基本構想・基本計画について

【小野会長】

議題(1) (仮称) 歴史民俗資料展示施設基本構想・基本計画について、事務局の説明を求めます。

【事務局（浅野）】

それでは、3. 議題(1) (仮称) 歴史民俗資料展示施設基本構想・基本計画についてご説明申し上げます。

少し説明が長くなりますので、着座にて失礼いたします。

資料1をご覧くださいと思います。

(仮称) 歴史民俗資料展示施設の基本構想(案)でございます。

前回、第2回のこの会議におきましてご意見をいただきまして、大きく修正したところあるいは加えたところにつきまして、赤字で加えさせていただいておりますので、その部分を中心にご説明させていただきたいと思っております。よろしく願います。

まず、資料の3ページをご覧ください。

基本情報の整理として、ラピオの概要がございます。

下の欄ですけれども、前回の会議では、この4階が、えほん図書館ですとか子供を対象とした施設が多いということで、対象を「多くの子どもたちに小牧市の歴史を知ってもらう機会を提供できる」とさせていただきましたが、この部分を、赤字で記載させていただきましたように「未来の小牧を担う子育て世代（こどもを含む）に小牧市の歴史を知ってもらう機会を提供できる」ということで直させていただいております。

次のページを飛ばしまして、6ページをご覧ください。

こちら大きく変えておりますが、ターゲットになります。

前回まではメインターゲットを「こども」、そしてサブターゲットが「若い親世代と祖父母世代」ということで出していたのですが、いろいろご意見をいただきまして、やっぱり小牧市唯一の歴史民俗資料の展示施設ということでしたので、メインターゲットを「小牧市の歴史に触れてみたい人」、主に「(市民)」とさせていただきまして、サブターゲットは「市外からの来訪者」ということで、市外の方についても小牧の歴史を知っていただくような施設にしたいということで大きく変えております。

これに伴いまして、下の説明書きのところも、「施設の目的を達成するために、多くの市民（こどもを含む）に、小牧の歴史と文化に触れてもらい、興味を持ってもらいます。自分たちの足元にある脈々と続く人の営み、身の回りにある他に誇れる小牧の文化財に気づいてもらい、郷土愛が育まれる基盤をつくっていきます。また、市外からの来訪者にとっても、小牧がどのような場所であったかを分かりやすく端的に伝えられる場とします。」と変えてございます。

また、コンセプトにつきましても変更がございます。

前回の「「むかし・いま・みらい」をつなぐタイムマシン“こまき号”」から、「「こまき」の「スゴイ」を発見!」ということで、「歴史=年号を覚える。」という苦手意識を払拭するということと、あと、自分たちが暮らす小牧の歴史のすごさを体感的に伝える施設としたい。当時を彷彿とさせる遺跡ですとか、史跡のスケール感、そこに生きた人々の痕跡を実物の資料とともにストーリーとして伝えていく。「こまき」の「スゴイ」に誰もが気づく場としたいということで、コンセプトにつきましても大きく変えてございます。

続きまして、資料の7ページをご覧ください。

3. 整備方針の、改修の方針です。

前回は改修概要として、真ん中辺り、黒字になりますものを改修方針とさせていただきましたが、上段に改修の方針としまして3点加えさせていただきました。

まず1つ目が、安全に配慮する。当たり前のことですけれども、多くの方々、大人も子どももシニアも、いろんな方が歴史を学びに来ていただける場というところで、選択するケースですとか、そういったものの素材ですとか、形状に配慮して、安全に過ごせる場としていくとうたわせていただいております。

2つ目、資料展示施設として、防犯・防火に配慮する。前回の会議でもいろんなご意見をいただきましたが、本物の資料を展示するに当たっての防犯・防火に配慮するというので、そういった素材の選定あるいは施工方法を今後検討していきたいとうたわせていただいております。

それから3番目、既存設備は可能な範囲で活用するというので、環境配慮への観点から、展示内容により既存部分の活用場所は異なるが、可能な範囲で既存の造作、設備を有効活用していきますというので、こちらの施設を整備するに当たってのコストを抑えることも考えております。

(2)の改修概要は以前と一緒で、下のほうに2つほど追加がございます。

1つ目が資料保護設備で、防犯・防火ということで、出入口の扉につきましては耐火仕様に改修する、鍵も防犯に強いものに改修していきたいと思っております。資料につきましては、直接手に触れないようにケースの中に展示いたします。監視カメラの設置ですとか、そういったことにつきましては今後検討していきたいと思っております。

あと、現状のラピオの警備状況について加えさせていただいております。開館時間中は共用部の巡回警備を行っております。閉館後は機械警備となっております。市民ギャラリーの四周の壁は、1時間耐火の不燃材を使っております。また、延焼を防ぐための消火設備は、スプリンクラーが既に設置されております。そういったものを加えさせていただいております。

続きまして、8ページをご覧ください。

以前こちらにありました展示構成(案)ですとか展示手法につきましては、基本計画のほうに移させていただいております。それに替えまして、施設活動(案)というもので1ページ加えさせていただいております。

(仮称)歴史民俗資料展示施設の目的達成のために必要な施設活動を以下に示します。施設規模や連携先との今後の調整やコスト面等の諸条件で取舍選択をし、当施設にふさわしい活動を検討しますということで、この施設でどのような展示をし、どのような体験をし、どこと連携していくのか、大まかなところを記載してございます。

展示活動につきましては、常設の展示、展示の更新、展示解説とあります。

内容につきましては、常設展示は、市内に残る貴重な資料を公開するというので、主に歴史館にあったものを中心に展示していくと、本物の資料を展示していくことにな

ります。

ずっと同じものを展示していきますとやっぱり飽きがきますので、年2回程度展示更新をできたらなと思っております。

展示解説としましては、子ども向けにつきましては、子ども用の解説シートを作成いたしたりすると。疑問を投げかけるようなシートですとかクイズシートを用意して、そのシートについても定期的に更新することでリピーターを増やしていきたいと考えております。

また、大人の方用の解説につきましては、例えばQRコードを読み込むですとか、既存の解説ソフト「ポケット学芸員」とかいったものがございますので、そういったものを使いながら、より深い解説を提供していきたいと考えております。

また、展示見学のサポート。こちらは人を配置したところになりますけれども、その場合ですと、展示の楽しみ方や見方を促したりとか、疑問を投げかけたりということをやりたいなと思っております。

体験活動ですが、講習会や講演会、それからワークショップを実施していきたいなと思っております。それ以外にも、この施設を飛び出しまして、いろんな遺跡のツアー、展示説明ですとか解説を行ったりもしたいなと考えております。

また、施設の中でできるか、あるいは関連施設になるか分かりませんが、簡単にできるワークショップを考えております。こうしたものにつきましては、ボランティアガイドさんですとか、そういった活動団体とのコラボも可能かと考えております。

連携活動ですが、館内での連携、それから関連施設との連携、学校連携と記載させていただいております。

館内連携につきましては、ラピオ内にありますまなび創造館、ワクティブこまき、こまきこども未来館、えほん図書館等々と連携した企画展示を行ってきたいと思っております。

関連する施設としましては、小牧山歴史館、れきしるこまき、小牧市創垂館等々と連携しまして、周辺地域の回遊を促すようなことを考えていきたいと思っております。

また、それらの施設を回るような解説付きの周遊ツアーを実施することで、この館のみならず、周辺の施設とも連携して、小牧の文化財について親しんでいただくようなことを考えております。

また、隣の中央図書館にあります郷土資料エリア、あるいは1階のイベントスペースでも連携展示を実施したいと思っております。

学校連携としましては、小学生、中学生の方々に来ていただきまして学んでいただくために、学習シートを用意したり、あと、時には体験用のワークショップを用意す

ることで、学校とも連携していきたいと考えております。

全てのものが開館当初からできるものではございませんが、また、人員配置ですとか体制によっても変わってきますが、今後詰めていきたいと思いますが、このようなことを行うような施設にしたいという感じでございます。

最後の10ページになりますが、こちらでは管理運営方針ということでございます。以前は少しつけさせていただいておりましたが、今現在、その中で、コストですとかも含めまして、防犯・安全というのが一番ですけれども、そういったところで、運営主体、開館時間、入館料、人員体制等につきまして検討しておりますので、今回は資料から省かせていただいております。

説明は一旦こちらで終わらせていただきます。よろしく申し上げます。

では、一旦こちらでご審議いただければと思います。

【小野会長】

事務局からの説明は終わりました。

これより質疑に入ります。

発言はありませんでしょうか。

【中嶋委員】

いいですか。

資料1—1の説明がないですけれども。

【事務局（浅野）】

資料1—1につきましては、中身としましては基本計画になりますので、この後に説明させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【中嶋委員】

後で。

【事務局（浅野）】

はい。今の基本構想をご審議いただいた後に、もう一度説明をさせていただきたいと思っております。

【中嶋委員】

この前の意見を大分酌み取っていただいて修正していただきまして、ありがとうございました。大分よくなっているなと思います。

ただ、強いて言うならば、8ページの施設活動(案)。これ、大変立派な案が出ておりますが、これができるかどうかは、職員体制とか管理体制が決まった後ではないか。先にこれを書いてしまうというのは、人が配置できないとなると、このBなんかはできないんじゃないか。

多分難しいと思うんです。本当はあそこに人を張りつけるというのは非常に難しいと思って。僕なんか勝手に夢想しますと、こども図書館に1人専門家を置いてその人が面倒見りゃいいじゃんとか、あとは、福祉部門のそういう人を置いてやればいいじゃんというんですが、これ、市の内部の調整がどれくらい難しいということも承知をしながら申し上げますが、ぜひ人は配置するという方向でやらないと、このBはできないなと思います。

以上です。

【小野会長】

いかがでしょう。

【藤堂委員】

3点ほど。

目的がね、大変不安でして。「歴史民俗資料を展示・活用し、市民交流の場、学びの場として、郷土愛、シビックプライドを育む」、カッコいいなと思う。そのためにこういう施設はぜひ必要だという認識で市が動いてくださるのは大変うれしいと思う。もうすぐ具体化していくということで喜んでいるんですが。

ただね、今日西川先生がいないので、西川先生のこの前言った意見、忘れておられるかもしれませんが、もう一回言わせていただくと、今中嶋さんが言われたように、人員配置とか大変難しい、あんなところではね。なので、やっぱり基本は、歴史民俗資料館というのをぜひ、図書館の跡が理想的ですけど、長期的に何とか市長に、あなた、この小牧のシビックプライドを育むためにはぜひ必要だということで教育長が説得してくださいよ。これから何年になるかは分かりませんが、ただ、今のところは仮だということで、ぜひお願いしたいと思います。

それから、内容は後だと言われましたけど、今中嶋さんも言われたように、やっぱり人だと思うんですね。内容を充実させる、市民が関心を持つ、そういうふうにしていくかどうかは人だと思うんですけど。

今、業者の方がいろいろ詳しくやっていただいて大変感心していますけど、やっぱり市としては、市の職員の中にも、きちっとこういうのを担当して企画し運営し、それに責任持っていく若い人をぜひ育ててほしいと。鈴木さんというすばらしい若い者に来ていただきましたので、ぜひこういう方を育ててね、こういう担当。業者の方の専門知識を借りながら、主体的に市がつくっていくという姿勢をぜひ持ってほしいと思います。

以上です。

【小野会長】

ありがとうございます。
ほかの方、どうでしょうか。
お願いします。

【富嶋委員】

お願いします。

6ページのコンセプトですけれども、大変よいと思っています。

立場上、授業で子供たちに小牧の歴史を教えることがあります。教えるときに考えるのは、小牧はすごいところなんだよと。ただ織田信長がいたんじゃないかと、小牧で織田信長がつくったものが次の時代へ出ていくみたいなことで教えて、子供たちにはぜひ住んでいる小牧を誇りに思ってもらいたいという思いで授業は今までしてきました。そのようなことにつながるのだと僕としては思っておりますので、これはすごくありがたいことだと思いますので、このようなコンセプトで進めていただければ大変よいかと思っております。

それから、活動方針のほうで学校連携なども考えられております。人的配置で難しいところもあるかもしれませんが、やはり学校と連携してというか、子供たちに広く紹介しながら進めていく、参加させながら進めていくのは大事かと思っておりますので、これもぜひお願いしたいと思っております。人手が足りなかったら、僕がボランティアで参加しますので。ぜひよろしくお願いたします。

それから、防火、防災、その他いろいろ大事なことで、第一義というものはあるんですけども、それらがきちんとクリアされている前提でいくと、ここにあるのはいいことだと思うんです。後から文化財をしょって立つ人材を育てるという意味でいくと、ここにあってここで目にした、最初は関心がなかったけれども、ここで目にした子供たちが関心を持って育っていく可能性も大いに広がると思うので、何とか安全面を配慮してここで実現できる方向で行けばよいのではないのでしょうかと思っております。

以上であります。

【小野会長】

ありがとうございます。ほかは、お願いします。

【池田委員】

すみません。

7ページの下のほうにあります、巡回警備とか、閉館後は機械警備って書いてある。機械っていうのはカメラで監視するっていうことですか。

【事務局（武市）】

そうですね。

【池田委員】

それでいいですか。何か違う意見があるんですか。

これ、機械警備っていうのはカメラ監視っていうことですよ。

【中嶋委員】

センサー。この辺もないですか、どこかに。人が動くと。そういうのも含めてです。

【事務局（武市）】

そうですね。

【池田委員】

では、かなり幅広くなってこと。

【事務局（武市）】

こちらのほうは、運営の方針によって、有人か無人かですとか、そういったことによってもかなり変わってくるものですから。

先ほど、最後の資料のところ、管理運営方針が今まだそういうところを再度検討中というところで、こちらのほうがしっかり方針が固まったところもございませうけれども、いずれにしても、有人の場合も監視カメラは必要なのかなとはちょっと思っておるところではあります。

【池田委員】

3点あるのでお願いします。

施設活動のところに学校連携と書いてあるんですが、学校ですが、郷土の歴史の授業とか何か、何年生かで配置ってされていますよね、どこかに。

【富嶋委員】

基本は3年生です。

【池田委員】

それで、3年生の児童を必ずここへ、1単元でもいいから来ていただけるような、そういう連携っていうのは難しいのか。

名古屋市の場合は全部やっているんですよね。ちょっと数が多くなっちゃったので外れる学校が出てきたんですけど、基本は、全部の学校に対して名古屋市の歴史というのはそこで全部教えるという。モノを見せるということね、教育的に教える。

それを基本的にやられれば、ここに、年間必ず入場者数の確保ができるということが大きいと思うんですよね。でも、それをしないと、入場者数が少なくなっちゃったら、これ、存続が厳しくなるかもしれないので。

1時間で、市のバスみたいなのがありますよね、あのバスに乗せてぱっと来てまた帰るような、そういう連携ができて。学校側も承認していかないといけないですけども。そういうことができると、ああこんなものが小牧にもあったんだと実際に目に見る。先生方も、興味のあるところが違うとは思いますが、そうやって何とか、見てくださる見学者の数を必ずキープできるような、年間ここだけは、この数はできるような、きちとした対策をまず取っていただいて、それでこの存続が可能になるようにしていただきたいということが1点あります。

それから、その同じページの上のほうのところ、展示見学サポートということで、展示の楽しみ方、見方など、シートなどを使ってと書いてあるんですけど、たしか歴史サポーターみたいな人を育てているんじゃないかと思うんですけども、現在歴史館か何かに入っているだけだと思うんですけども、そういう人たちにここへ。まあ1人か2人ぐらいだと思うんです、空間的な広さからいけばそんなもんしか入れないけど、でも、やっぱり2人いると助かるんですけども。そういう方もきちんと配置するというのを、後からだと難しいので、当初から入れるような計画を少し立てていただけたらありがたいかなと思います。

あと、紙でみんなこう、学生さんたちにというか、子供さんでもですけど、今、シートじゃなくて、ここにもありますようにQRコードを読み取るという。大人はできるんですけど、子供向けに何か音声で。人がやるというのものもあるけど、何か簡単に音声でできるような方法をちょっと考えていただけると。まず紙は見ない、子供って。そういうことを少し、音で耳に入っちゃうような、あるいはその後ろに映像で何かできるような、もうちょっと。お金がかかるかもしれませんが、どうせ一回しか作らないものだから、それでまずやっていただけるとありがたいなと思うので。

少し踏み込んだ形でみんなに知らせる、子供さんたちに知らせるようなことをしていただけるとありがたいなと思いますが。

これは願望であって、多分難しいかとは思うんですけど。

学校側としてはいかがでしょうか。難しいですか。

【富嶋委員】

学校が決めることじゃないのであれですが。

【池田委員】

学校側はこういくという。

【富嶋委員】

例えば、今だと、4年生の子たちが中部公民館にプラネタリウム学習に行っております。これは、市のほうで手配してくださって、やっぱりバスを出していただいて、全校4年生が出かけていますので、こういう形が取れるのであれば、形の上では可能なのかなとも思います。

それから、3年生だと、郷土史というよりは、ぐっと昔の暮らしみたいなことになるので、3年生が妥当かどうかちょっと分からないですけれども。その辺はまたいろいろあるとは思いますが。

とりあえずそういう形ではできるのかなというふうに思います。

今子供たち、1人1台タブレットがあるので、そのときにタブレットを持ち出して、見ながら、QRコードを読み取ることは、ツールとしては可能だと思いますので。夢が広がる感じになります。

【池田委員】

ぜひ何かそういう連携が取れるようなことを、先に手を打っていただけるとありがた

いなと思ったんです。

すみません、余分なことを言って。

【富嶋委員】

いや、大事だと思う。

【小野会長】

ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

【藤堂委員】

小牧山だったら遠足で歩けるんだけど、ああいうところは遠足はちょっと無理でしょうね。

【池田委員】

そんな、どうせ1時間ぐらいで終わるぐらいの。だって、200なんだから平米数。ここの部屋あるかないかでしょ。

【藤堂委員】

やっぱりバスか何かで。

【小野会長】

夏休みとかの自由学習とか自由研究みたいなので使うとかっていう可能性はどうですか。

【池田委員】

そうすると、行く子と行かない子が。

【富嶋委員】

どうしても家が近い遠いとか、家庭環境その他、興味関心とかあるので、どうしてもばらつきが出てきますね。

4年生のプラネタリウム学習はみんなで行きますので。もちろん理科の学習と関連させているんですけども、みんなに等しく見てもらえるというのはありがたいことです。

【藤堂委員】

何年か前にあそこで民具展というのをやった。今ちょうどこの同じ場所で。そのときに来てくれたのは小牧小学校と南小学校だったかな。やっぱり近くの小学校しか来れなかった、歩いてね。なので、市の全小学校というと、やっぱり市の協力でバスか何か手配していただかないと来てもらえないということになりますよね。

【中嶋委員】

ちょっとよろしいですか。

たしか中学生は、メナードと美術の関係で、何年生か知らんけど、夏休み中に見に行ったらシートを書いてこないかんという宿題が出ていたような気がしますが、そういう手もありですね。

【池田委員】

シートを書いてもらって。でも、3年生にシートとかってきついかなどは思うんですがね。まあ今はできるかも。

【藤堂委員】

またそういう工夫がね。

【池田委員】

そのバスを出すときに、借り切っちゃってバスで行かせるでしょう。あれね、子供たちってバスに乗る体験って大分少ないので、自分たちでお金を持ってきて、お金をチャリンと入れて乗せるということも、別の体験になるわけですね。難しいと思うんだけど。

パリ市内は幼稚園の子にそうさせています。必ずお金を持ってきて、お金を払わせて、それで市のバスを使ってどこかへ行くということをしているんですよね。だから、そういう別の体験もできちゃうんで、ちょっと面白いかなと思ってね。まだ日本国内ではあまりやっていないんだけどね。

【小野会長】

確かに今なんか、もう全部カードでタッチとか、電子的な感じで。

【池田委員】

そうそう、カードでタッチでもいいですけどね。

【小野会長】

だから、仕組みが分からないですよ、幾ら引かれてというね。

【事務局（中川教育長）】

よろしいですか。

今、貸し切りバスとかいうお話が出てはいるんですけども、実は小牧市内は、こども未来館ができたときに、いわゆる年間パス、無料パスを出しているんです。そのパスで「こまくる」に乗ると、小学生無料なんです。これ、あんまり認知されていないので。

逆に言うと、同じ建屋の中にあるわけですから、それをリンクさせていくような。この先ですよ、そういう活用というのは可能だと思いますから。

これは、まだ現在は基本構想、基本計画の段階ですので、実際には実施計画等に入っていく段階でそれをご議論いただく形になってくるかと思っておりますので、よろしくお願ひします。うまくそういったところも使っていけば。

【藤堂委員】

もう1点。

池田先生が言われたボランティアですけど、今小牧市にれきしるなんかに入っているのは、多分「たぶの木会」とかそういう会だと思うんですけど、その人たち、熱心に活動していますよね。私は2、3人知っていますが、皆さん熱心にやっている。多分、池田先生が言われたように、具体的な運営に入っていくと、これ、ボランティアっていっぱい書いていますので、ぜひ協力が必要だと思うんですよ、そういう市民の協力が。

そういうときに、つくってくれじゃなくて、やっぱり準備の段階から準備の委員会みたいなものを組織して、そういう市民の代表、ボランティアの代表みたいな人に入っていていろいろ考えていただくという、そういう手だてが必要じゃないかと思うんですけど。結果、つくったから来いじゃなくて、つくる段階からそういう市民に入ってもらおうという体制ができませんかね。

【小野会長】

そうですね。ボランティアの協力がなくなかなか難しいところもありますから、ある程度計画の段階からボランティアの方に入ってもらって、やる気も出してもらって、

ちょっと案も出してもらいながらやっていくと、いい形で開館できるかもしれないということですね。

これについては、ちょっとご検討いただくということをお願いいたします。

そのほかはいかがでしょうか。

かなりスピーディーにいろいろ修正いただいて、具体的に出てきておりますけれども、よろしいでしょうか。まだ、1-1というこっこの細かい説明にもこれから入っていくと思いますけれども。

では、今見ているこちらの資料、基本構想（案）は、こちらで質疑を、ここでいいでしょうか、ひとまず締めたいと思います。

そうしましたら、この1-1の説明はどこでされますか。お願いいたします。

【事務局（浅野）】

それでは、資料1-1の説明をさせていただきます。A3縦のものになります。

先ほど申しましたように、以前は展示は基本構想の中に含まれておりましたが、こちらを基本計画のほうに移すために、もう一度内容も確認、修正させていただきました。

コンセプトが前回から変わらして「「こまき」の「スゴイ」を発見！」というところと、メインターゲットが、「こども」から「小牧市の歴史に触れてみたい人（市民）」というふうに変わりましたので、その内容に合わせて大きく修正しております。

まず1つ目としまして、「自分に繋がる歴史の流れと小牧の歴史」ということで、これは以前とそれほど変わりませんが、以前がもっと大きく、ビッグバンから人類誕生、それから日本の歴史、小牧の歴史とつながっておったものを、日本の歴史の中からスタートしまして、その中における小牧の歴史を加えていき、自分と身近な地域が昔はどうだったのかということで、導入部分として、主に年表にはなろうかと思いますが、展示していきたいと考えております。

2番目ですが、「これだけは知って欲しい！小牧の3大・スゴイところ！」ということで、コンセプトに冠したところがございます。小牧市といいましても、いろいろ歴史がある中で、ほかの市町村と比べてどんな特徴があるのかというところを大きく3つプラスアルファということで挙げさせていただいております。こういったテーマに基づきまして、今後、ゾーニングですとか展示配置等々も考えていきたいと思っておりますので、ご意見いただければと思います。

まず、小牧市には国指定史跡が2か所、そのほかにも多くの文化財があります。それぞれ地域からいろんな文化財が出土しておりますけれども、原始・古代から現代に至る小牧の歴史のうち、「スゴイ」と他市に誇れるようなもの、「スゴイ」というものを

3つに絞りまして、「小牧といえばコレ。」というものを3点挙げさせていただいております。

1つ目が、銅鐸・銅鏡がある、プラス古墳ということで、弥生から古墳時代の辺りの説明になります。

市内には前期・中期・後期の古墳がそれぞれございまして、それぞれの地域にいろんな権力者がいたということがあります。そもそも古墳とは何なのかということ、そこから発見されたものが何を語るのかというところを、実物の展示を通して伝えていきたいと考えております。こちらでは、古墳とはちょっと関係ありませんが、市指定文化財になっております銅鐸ですとか、県指定の三角縁神獣鏡ですとか、そういったものの実物資料を展示するとともに、どこまでできるかは予算のこともありますが、古墳の実物大の展示ですとか、映像、グラフィック等々で、小牧の弥生から古墳時代について紹介していきたいと考えております。

2つ目が、国指定史跡大山廃寺跡、あわせて篠岡古窯跡群、この2つになります。古代から中世の歴史になります。

1つ目が、謎の山岳寺院大山廃寺跡ということで、西の比叡山と比べられるような大寺院がなぜこの小牧に建てられたのか。ちょっと分からないところもあるかと思いますが、そういうのも踏まえまして説明していきたいなと思っております。まだ発掘調査も一部しか行っておりませんで、分からない点が多々ありますけれども、こういった不思議も特徴として来訪者に伝えていきたいと考えております。主には、大山廃寺からの出土遺物の瓦ですとか碗、花瓶等々の実物の資料を展示しながら、分かる限りの当時の大山廃寺がどうだったのかというところを、例えばCGですとか部分再現ですとか、そういったもので伝えていけたらなと考えております。

それから、プラスアルファになりますが、3つ目、篠岡古窯跡群になります。600年間にわたって100基以上が築かれた穴窯ということで、小牧の特徴として代表的な篠岡古窯跡群について紹介をしていきたいと思っております。ここで焼かれたものが、日本の中心であった京都・奈良方面、また東国地方に出荷されて、都や地方の役人にも珍重されたこの小牧産陶器について紹介していきたいなと思っております。こちら、実物資料といたしまして出土遺物になります、須恵器ですとか灰釉陶器、山茶碗等々の展示。それから、こちら、こちらも予算の都合と配置になりますが、窯の一部再現ですとか、グラフィックによる紹介等々を行っていきたいと思っております。

3つ目の「スゴイ」としまして、「中世城下町から繋がる宿場町」ということで挙げてございます。信長が築いた小牧山城を中心としました城下町、それから、その城下町の残った部分が現在の中心市街地に移転し、宿場町小牧宿ができましたけれど

も、こういった信長や尾張徳川家が関わった町ということで、その紹介をしていきたいなと思っております。こちら、中世城下町、信長の城下町の出土遺物はございますが、れきしる、あるいは歴史館でも主に展示してございますので、少し説明、現物の展示をしつつ、あとは、主には宿場町の状況ということで、立版古風な造形、あるいは可能であれば映像を撮ったりですとか、現在の宿場町に残っているものも、写真ですとかそういったもので紹介できたらなと思っております。

最後の「(3. 体験してみる。)」につきましては、先ほど来ご審議いただきますように、人員配置ですとかボランティアさんのことがございますが、もし配置によって可能であれば、そこでいろんなワークショップ的なものができたらなところで、展示構成(案)として加えてございます。

こういったものを基に、今後また、コストの面ですとかも考えながら、展示のゾーニングですとか配置等々を検討していきたいと考えておりますが、まず、小牧の「スゴイ」ところとして大きくこの3つに分けて考えておりますが、その辺り、まだこういったものもあるんじゃないかとか、こういったものを展示したらどうかとか、こういう方法があるよということがございましたら、ご意見をいただけたらと思っております。

説明は以上になります。

【小野会長】

ありがとうございます。

そうしましたら、資料の1-1ですね、今説明いただいたところで、何かご意見ございませんでしょうか。

【藤堂委員】

すみません、最初に。

小牧の歴史の名残をこうやって展示してくださるというのはすごくいいことだと。

小牧山に信長が城を造ったのは、永禄6年から10年までのわずかなんですよね。すぐ捨てたという。逃げていった。逃げていったじゃなくて出ていったんだね。それから、家康が戦争したのは、天正12年の1年ですよ、わずか。信長とか家康というのは、この小牧の歴史の中でほんのちょっとの時期しかないんだよね。あとは古代から、石器時代から延々と人々が築いてきた歴史がこの小牧の各地方に残っているので、それをぜひ。年代、流れをこうやって展示していただくというのがすごくいいことだとは思いました。

ただ、もう1つ付け加えるとしたら、入鹿用水、木津用水。小牧を開いた人々という

のをね、僕は小学生4年生向けか何か副読本を作った覚えがあるんですけど、小牧の歴史の中で用水というのは結構大きいんじゃないかと思いますが、どうでしょうか。

【小野会長】

そういうものもここにちょっと加わったらいいなっていう。

【藤堂委員】

入鹿池の築造から入鹿用水、それから木津用水、新田開発というね。小牧が開かれた歴史、近世に開かれた、発展していった歴史というのは、重要じゃないかと思いますが。

【小野会長】

そうすると、それは江戸ですよ。

【藤堂委員】

江戸です。宿場町もそうですけど、江戸ですね。

【小野会長】

江戸ですよ。

今こういうご意見が出ました。

ほかや、ここに加えてほしいというのは、ご意見ございますか。

お願いいたします。

【池田委員】

小牧の市内に寺院がたくさんあるんですが、あの寺院っていうのは、実は、基本的に江戸より前の寺院が多いですよ。つまりどういうことかっていうと、この辺りが江戸より前のところでは、どのぐらい発展っておかしいけれども、この濃尾平野において割に中心的地域であったかということが、その寺院があることから分かるんですよ。しかも、そのほとんどが、室町あるいはその前の鎌倉創建の寺院。大山廃寺もそうですけれども。その後、信長が来るまでの間に、ここの中における寺院がたくさんできたということ、そしてその寺院の中にある仏像というのは、実は室町、鎌倉の仏像がある。下手したら平安のもあったよね。

藤島の賢林寺だったっけ、平安仏とかあるから。

そんな何にもないところにお寺だけぼんぼんということはないので、当然人々がいて、寺ができて布教活動をしていくわけですから。

今私たち、小牧っていうと、名古屋があつて、ちょっと離れていて近郊という感じになっちゃっている。そうでなくて、江戸以前は実はこっちがメインで、名古屋っていうのは何にもない、いわゆる田や畑のところだったっていう、その感覚がこの中には見えないんですよね。それを何とか見せるようにしないと。

ずっと昔から小牧がこんなふうな近郊の都市だったのではなくて、こっちがメインだったんだよというところ。そして、川の向こうに結構、例えば守山にたくさん古墳が造られているけど、あの古墳たちは、面白いことにこっち向き、つまり小牧のほうに向けて正面を造るんですよ。分かります。つまり、こっちに向いて帰りたいわみたいな感じで古墳が造ってあるんですよ。そういう古墳があるということは、いかにこっちがメインだったかということ語るわけですよ。

もちろんここにも古墳はあるんですけども、そういう地域だったということを、これは表向いてはどこにも出てこないんですけども、実はそういうところがこの辺だったんだよということが分かるようなものがどこかに入ると。

実際に、例えばお寺さんが持っている仏像なんかは展示できないけど、何かそういったね、できるような、そのかわりになるものがあれば、小牧の寺って古いんだよっていうことを分かってもらえともう少し面白いかなと思うので。

大山麿寺はなくなった寺じゃなくて、やっぱり大山寺という寺があつたからその周りにもどんどんお寺が造られていくという、そのあたりをもうちょっと入れてほしいなっていうふうに、これは見ていて思ったんですけども。

あとは、先ほどおっしゃったように、戦国時代のところで、この小牧という地域史ではなくて、全国史、全国の歴史と関わるような。ピンポイントで、例えば信長がいたとか、小牧の戦いがあつたとか、そういうところに登場しているっていうところは。そういう言葉でも、全国史と関わった小牧のポイントみたいな形でおっしゃられると、自分たちが全国史に関わっているというところの意識が出てくると思うので、ちょっとその辺りがあるとありがたいなと思ったんですけどね。

【小野会長】

ありがとうございます。

私も池田先生と同じように仏教美術史が専門ですから、これを見たときに、美術史的なものがないなとか、ちょっとそういう感じがしたんですね。

小牧市って、やっぱり国指定の、国の重要文化財になっている賢林寺の平安前期の仏

像もあるし、正眼寺には誕生仏もあるし、大きな涅槃図もあって、それは美術の分野でもちょっと注目するようなものがある。そういうものがあるんだけど、ここに出てきてなくて。

スペースに限りがあるからあれもこれもというわけにはいかないんですけども、例えば仏像って、見るとやっぱり結構すごい印象に残るので、例えばレプリカでもちょっとあるとか、あるいはパネルで展示するとか。というのでも結構迫力があると思うんですよね。形のあるものがある、例えば実物大であるとか。そういうのもちょっとどこかに。

何ていうのかな、大山廃寺だけじゃなくて。これも仏教とも関わるけど、どちらかというところ考古寄りの気がして。さっき池田先生おっしゃられたように、お寺がいっぱいあって、そこでそういう宗教活動が行われて、こういうものが残っているよ、仏像とか絵画が残っているよ、しかも国の指定にもなっているよというのが、少しどこかで分かってくるといいなあと。

それから、本当だったら、防火施設があることを前提にして、例えばケースが一つあって、そこにはお寺様から借りられたものがある、このケース一つだけ、毎年この時期のここだけはいろんなお寺の仏像が来て、御開帳じゃないけれども移動してきているよとか。そんなものがあつたら、結構これは、今じゃなきゃ見られないという感覚で人が来てくれないかなっていう気もして。実物を見るという点では、すごい効果あるなというふうにちょっと思いました。

あと、ほかは。

【中嶋委員】

いいですか。

言いわけしよう。大分これ、僕が意見を言ってこういうふうにしてもらったので、責任上言います。

一つは、考古学的なものとはどうか、今見てもらうことができるものを中心に考えたんですね。そうすると、歴史館に今まで展示してきたと。で、実際展示できるんですね。そういうものを中心に考えて、しかもある程度研究が進んでいて、物が言えるものですね。

例えば、多分鎌倉時代ぐらいから小牧の各地に集落ができて、そこにお寺もできてという、もっと古いものもあるんだろうと思うんですけども、やはりここは古墳時代には道があつて中心だったかもしれないけど、中世に入ると多分中心ではないんですよ。やっぱり稲沢とか一宮を経由するような、多分そちらのほうのルートが中心だと思うん

ですね。そういう意味では、稲沢なんかすごい、もっとありますよね。それに比べるとちょっと一段違うなということ。まだその辺のことが十分解明できていないので、なかなか言いづらいんですね。

確かに国指定のものがあるから、そういうものを紹介するのはいいと思うんですけど、実物は、先ほどの話じゃないですけど、単独の施設がいずれできてきちんとしたときならいいかもしれないんですが、ここの複合施設の中にいろんなところから借りてきて展示するというのは、僕はまだちょっと抵抗があつて。

考古資料を中心に展示するならまあいいかなということで、ちょっと意見を出したもののなんですね。そういうことです。

【小野会長】

ありがとうございます。

そうですね、それは十分ここから伝わりました。実物資料を出せるなんていう、それで結構長期でこれは出せるんだっていうので、こういうことでそれは理解できていました。

仏像なんかは、ほかの自治体の、ちゃんとしたところじゃなくて図書館の一部にくっついているとか。どこで見たかな、刈谷だったかな。そこは仏像がレプリカで作られていて、所狭しと仏像があつて、それでも迫力はあつたんですけど。あと、パネルでも一部展示されていたんですけど。

やっぱり指定になっていてすごいよっていうのを、レプリカでその大きさと、すごい忠実に、表面も木造にしか見えないような、ああいうのが常調用で置かれていたりするのもいいと思うんですね。スペースがないんだったら、どこかケース一つで、賢林寺の国指定の、平安前期の、ああ、こんなのあるんだっていうだけでもいいんですね。ここの説明に加えるには、仏教の歴史というのはあまりはっきりと研究がなされているわけでもなく言いづらいというのであれば、国の指定、ほかにもこういうのがあるよというのをちょっとしたスペースでも見せていく、紹介するスペースがあつてもいいかなと思いました。

【池田委員】

私、レプリカをつけるのは、ちょっと何か。

【小野会長】

抵抗ある。

【池田委員】

抵抗あるんですけど、今、コンピューターで完全な再現仏像みたいなのが。

【小野会長】

できるんですよ。

【池田委員】

あの形ならいいかなとは思んですけどね。

それで、レプリカですから触らせてやってください。レプリカ作るんだったら、触れるよっていうことをして。本物は触れないけど、ここはレプリカだから触れるという、そういうものがね。

でも、お寺さんがあるよということと言わないと。何でこんな寺があるのって。みんな、子供たちは寺というところとすごい抵抗があるので、そう思うだけなんですけど、これがみんなの信仰として出てきたというところで、レプリカをもしも作られるなら触れるというね。よくそういうのがありますよね、触ってぐしゃぐしゃにしちゃってっていうのが。そういう感じなので作る。レプリカならそこまでやらせてあげたいなという気がします。

【小野会長】

あと、戒蔵院の仏像が結構大きいですよ。

【池田委員】

あれ、大きいですね。

【小野会長】

大きいですよ。あれは室町時代と市ではなっているけど、あの頭部はもっと古いんですよ。平安の結構真ん中より前に来そうぐらい古いんですよ。だけど、それ、知られていないというか。体はもうちょっと、平安でも下る気もするんですけど、あれが実物大で立っていたらすごい迫力が。レプリカでもいいんですよ、あっこんなのあるんだって、後ろに回ったり近くで見たりとか。それも迫力があるし。だから、レプリカでも十分そのすごさって伝えられると思うんですよ。

ただ、作ると、レプリカだと樹脂製とかをやるから、触ると壊れる可能性が。10年

ぐらいで壊れる可能性があつて。きれいにやっておけばまあ20年、触らせなければ20年30年。

【池田委員】

あまり手をひどくこやらなければ、大丈夫だと思うんですよ。それに、今は人の配置がつくっていないけど、ボランティアの方がいてくだされば、そんなひどいことも人の前ではやらないと思うから。

【中嶋委員】

ただ、ボランティアの方が四六時中つくというのは無理だと思うんですよ。

日を決めてとか、例えば土日とか、そういうことになると思うので、やっぱりその辺りの日常のことも考えないと、ちょっと難しいのかなと思いますね。

【小野会長】

お願いいたします。

【事務局（浅野）】

いろいろご意見いただきまして、例えば、この施設自体が200平米ということでかなり狭い、制限があります。そういった中で、歴史館にあったように、原始・古代からずっときて、近現代まで全てを展示することがなかなか難しいなという中で、中嶋委員にもご相談させていただきまして、大きく3つプラスアルファ、4つということで、大きなコーナーじゃないですけども、小牧としてはこういうものがすごいんだよというものを選ばせていただきました。

先ほど来お話しいただきました、例えば用水の話、入鹿六人衆の話ですとか、こういった寺院、こういった仏像があるよというところもちろん大事なことだと思いますので、この中に組み込めるものはもちろん組み込んでいくんですけども、例えば年表は、ボードのところで日本の歴史の中に小牧の歴史を加えていくというものがありますので、そういったところにそういった紹介をさせていただくですとか。あと、先ほど申しました電子機器を使ったものですけども、QRコードとかいったもので、それぞれのもう少し詳しい紹介をさせていただくとかいうことで対応していきたいなと思っております。

あと、レプリカの話もありましたが、予算の都合と、どういったものをということもございまして、今後、来年度こちらの基本計画、基本設計をやっていきますので、そ

ちらでまた検討していきたいと思います。

以上です。

【小野会長】

ありがとうございました。

ほかはよろしいでしょうか。

こちらはもう質疑ございませんので、どうしたらよろしいですか。このまま進めていってよろしいでしょうか。

【事務局（浅野）】

トータルメディア開発研究所はここで退室させていただきますので、よろしく願いいたします。

【トータルメディア開発研究所(吉原)】

ありがとうございました。

(2) 令和5年度事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

【小野会長】

そうしましたら、議題の(2) 令和5年度事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について、事務局に説明を求めます。

【事務局（浅野）】

議題の(2) 令和5年度事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について、ご説明させていただきます。

着座にて失礼いたします。

資料2をご覧ください。

令和5年度の実績ということで、教育委員会の中で4点の取組を今年度やっております。その中の内容と達成状況、課題、今後の取組の方向性についてご説明させていただきます。

まず1ページ目ですが、文化財の指定保護ということで、新たに保護すべき文化財や散逸、廃棄のおそれのある古文書等を見いだす調査を行い、指定・保護を進めますということを進めてきました。

達成状況ですが、先ほど教育長のお話もありましたように、先月1月19日に本審議

会におきまして、市内に所在する創建が西暦1500年以前の寺院及び小牧十観音の札所となっている2寺院について調査していただきました。こちらの調査をしていただきましたが、結果といたしましては、いずれも指定には至らないということでありました。

この調査、保護につきましての課題ですけれども、寺院等からは、創建は古いが建物は新しくなっており、現在は古いものは所蔵していないといった理由から、実際にお電話させていただきましても調査を断られる事例が多いということでございます。こういったことから、新たな文化財を発掘する機会が少なくなっているという課題がございます。

もう1点ですが、神社や寺院が所蔵する資料以外にも、新たに保護すべき文化財の調査対象を広げていく必要があると考えております。

こういったことを受けまして、今後の取組の方向性としましては、文化財の範囲は幅広く種類も様々あります。市民がその価値をしっかりと認識し、後世に残していただけるよう、文化財の保護・保存の必要性や、現在市内にある有形・無形の文化財の歴史や価値などについて、市民に向けてさらなる周知に努めることで、文化財保護に向けた市民の意識向上を図り、新たな文化財の発掘につなげていきますという取組を考えさせていただいております。

今現在も、いろんなパンフレット、それから各種講座等々で、市民の方々にはいろいろな文化財についての周知を図っておりますが、こういったものをさらに詰めまして、例えば市民の方から、こんなものが地域にあるよとかいう情報をいただけるようなことができないかなと考えております。

1枚はねていただきまして、2ページをお願いいたします。

続きまして、古文書・歴史に関する講座等の開催。

内容につきましては、古文書や歴史に関する講座の開催をはじめ、文化財巡りや歴史資料の展示・解説などを行います。若い世代が興味を持てるよう、内容の充実に努めますということで、自治体でやっていないものでございます。

達成状況としましては、まず1つが、愛知文教大学さんに委託して行った事業になりますが、「小牧市歴史文化基礎講座」というものを3回やりまして、2回目は池田先生にも「小牧の美術文化財について」ということでご講演いただいております。3回合計で178名の受講者数がございました。

2つ目が古文書についてでございます。「古文書基礎講座」前期と後期、それから「古文書実践講座」を行っております。

7月29日と8月5日につきましては、子供向けで、「子ども古文書寺子屋」ということで行いました。文字釣りゲーム、百人一首かるた等々で、分かりやすく古文書につ

いて小学生に親しんでいただく取組でございます。受講者数は10名となっております。また、古文書講座につきましては、前期に22名、後期に12名の参加がございました。3ページをお願いします。

「古文書実践講座」ということで、年が明けまして1月13日、20日、27日、2月3日と行われまして、これまでの古文書の基礎講座から発展いたしまして、実践講座ということで、より詳しく説明をしていただきました。計44名の参加がございました。

それから、8月17から23日にかけて、小牧宿の開設から昨年が400年に当たることを記念しまして、小牧宿の歴史をたどるとともに、小牧のお店や家に伝わった古民具が展示されました。これは、中央図書館の1階のスペースを使いまして、ビデオ上映、それから小牧宿に関わるパネルの展示、古民具の展示を行いました。期間中698名の方にご観覧いただきました。

続きまして、小学校で郷土について学習することを受けて、さらに発展的に小牧の郷土の歴史や地理・公民等への関心を高めていただくということで、「こまき検定」を開催いたしました。こちらは、小牧市文化財資料研究員会において、市内小中学校の先生方から成る会でございますが、去年委託を行いまして、11月3日に開催いたしました。受験者数は20名でございます。

それから、実際に現地を歩いて文化財に触れるということで、「文化財巡り」を11月5日に開催いたしました。先ほど申しました小牧宿開設から400年ということに関しまして、小牧の文化財地図をもとに、小牧宿の散策をやっております。15名の参加をいただいております。

4ページをお願いします。

信長と家康、そして秀吉と家康ということで、「歴史講座」を開催いたしました。合計5回開催しまして、計646名の方に受講いただいております。

それから、まだあと1回は今度になりますが、2月の3日、10日、17日、3回の予定で、「信長学」を開いております。1回目は70名、2、3回目は受付数で合計153名で、愛知文教大学さんに委託して行っているものでございます。

これらの講座につきましての課題といたしまして、引き続き、様々な年代の市民の方々が小牧の歴史について興味・関心を高められるような講座などを開催する必要があると思っております。それから、若い世代が小牧市の歴史に興味を持つきっかけになるよう、市内に残る貴重な文化や歴史に気軽に触れられるような機会を創出する必要があるとも考えております。

今後の取組の方向性ですけれども、今年度につきましては、NHK大河ドラマ「どうする家康」にちなんだ内容を入れたことで、古文書寺子屋の受講者数が前年よりも

増えたということではありますが、今後も子供たちが興味を持って参加していただけるような魅力ある内容となるよう、工夫していきたいと考えております。

続きまして5ページです。

今年度実施しました「小牧宿400年展」につきましては、令和夏まつりですとか秋葉まつりの開催時期と合わせたテーマで、中央図書館のイベントスペースでやった結果、多くの方に見学いただき大変好評いただいたということですので、引き続き来年度もこの中央図書館との連携ということで展示をしていきたいと考えております。

また、古文書に興味・関心を持ち、親しんでいただけるよう、地元に残る古文書を題材にするなど、講座の内容を今後も検討していきたいと思っております。

最後ですが、若い世代により興味・関心を持っていただけるよう、例えば市内で出土したいろいろな時代の土器に触れるための体験を交えた講座内容も、来年度以降検討していきたいと考えております。

続きまして、6ページをお願いします。

史跡小牧山主郭地区整備基本計画の推進でございます。

内容としましては、令和7年度の完成を目指し、史跡小牧山主郭地区のうち、小牧山歴史館周辺の石垣復元等の史跡整備工事を進めますということで、現在ですが、小牧山の歴史館の南側、第2工区と呼んでおりますが、こちらにおいて2段の石垣等々の整備を行っています。3月末には完了する予定でございます。

それから、平成30年度に実施いたしました歴史館の南東斜面、1段下になりますが、第11工区発掘調査で見つかった礎石がありますが、これに対応する礎石を確認して建物規模や配置を明らかにすることを目的としまして、令和5年の6月から12月に主郭地区第4工区で発掘調査を行っております。調査面積は191平米でございます。

調査の成果としましては、新たに調査区の東側で礎石建物を検出しましたが、平成30年度に実施しました調査で見つかった礎石との対応ですとか、その性格等々については不明であります。

課題としましては、今回やっておりますが、工事中の安全確保のため立入規制の範囲を設ける必要がありました。ホームページ等々で、あるいは現地に看板を設置して周知しておりましたが、小牧山を利用される方には、道が分かりにくいですとか、歴史館になかなか行けないというようなご意見をいただいております。

また、主郭地区には貴重な遺構が分布しておりまして、今後も史跡整備の設計に必要な地下遺構の情報を先行して調査する必要があります。また、これらの遺構に対する市民の関心、理解を深めていく必要があります。

こういったことを受けまして、今現在、令和7年度完成を目標に、歴史館周辺の整備をやっておりますけれども、今後も、工事監理業者ですとか施工業者と作業計画について十分に協議・調整を図って、円滑に史跡整備を進めていきたいと考えております。

それから、先ほど課題にもありましたように、工事に際しまして、矢印看板ですとか通行止め看板の設置箇所を増やしたり、目につきやすい表示を心がけることによって、来場者が安全に目的地にたどり着けるような方策を考えていきます。

また、6年ですけれども、小牧山の価値を正しく分かりやすく伝えていくということで、予定では大手道の発掘調査を予定しております。

これらの成果につきましては、市のホームページ、れきしるこまきにおける展示、また現地公開によって、発掘調査あるいは史跡整備の成果等々について周知に努めていきたいと考えております。

最後になりますが、8ページをご覧ください。

史跡小牧山の歴史的価値や魅力の啓発ということで、史跡小牧山の歴史的価値や魅力について小牧山を来訪された方により理解していただけるよう、小牧山歴史館及びれきしるこまきにおいて企画展示や講座等を行っております。

こちらは、小牧山歴史館、あるいはれきしるこまきの指定管理者であります一般財団法人こまき市民文化財団により、次のような企画展等々を行っております。

まず、歴史館の企画展では、「石垣で見る日本のお城写真展」ということで、今現在開催中でございます。歴史館1階の無料エリアで展示してございます。

それから、れきしるこまきの企画展ですが、「愛知県最初の公園『小牧公園』150年の歩み」ということで、2期に分けてやっております。1期なら4月1日から8月7日まで、れきしるこまきのエントランスルームとレクチャールームの間の通路で、主に写真パネルですとか解説等々で行っております。来場者数は、期間中3万548人のご観覧をいただいております。

それから、「小牧山主郭地区第3・4工区発掘調査と石垣復元パネル展」ということで、令和4年度に行いました発掘調査の成果につきまして企画展示・資料室で展示を行いまして、期間中5,921人の来場がございました。

それから、大河ドラマに合わせまして「家康公の天下をとるは小牧にあり！小牧・長久手の合戦」ということで、8月1日から9月20日まで企画展を行いまして、来場者は6,925人の方々に来ていただきました。

先ほど申しました「愛知県最初の公園『小牧公園』150年の歩み」の第2期としまして、8月8日から12月27日まで行いまして、期間中、4万4,699人のご

来場がありました。

9ページ目に移りまして、これは今やっておるんですけども、「令和5年度史跡小牧山主郭地区第4工区発掘調査報告」ということで、1月17日から行っております。

そのほか、歴史館の関連事業としまして、「甲冑試着体験」ですとか「小牧山城茶会」「忍者衣装試着体験」を行っております。

また、れきしるこまきにおきまして、「ぐるぐるめぐる！小牧山スタンプラリー」ということで、8月1日から9月20日まで行われまして、898人の方に参加いただいております。そのほか「甲冑試着体験」ですとか「小牧山城茶会」等々を行っております。また、先ほどのスタンプラリーは秋もやっております、763名の方にご参加いただいております。

それから、講座・講演ですけれども、以下のとおり講座・講演を進めておりまして、記載にありますとおりの受講者数となっております。

10ページにいきまして、ワークショップも行っております。主に小中学生ですが、一部大人の方も対象になっておりますが、ご覧のようなワークショップを開催いたしまして、参加者数も記載のとおりでございます。

課題としましては、さらに多くの方にご来場いただけるように、小牧山城の歴史や魅力を発信する方法を指定管理者と連携して検討する必要があると思っております。

今後の取組の方向性といたしましては、指定管理者でありますこまき市民文化財団において、引き続き小牧山発掘調査の成果あるいは史跡整備の状況の解説など、タイムリーな企画展示や講座などの開催を行っていきたいと考えております。

また、歴史館、あるいはれきしるこまきで行いました来場者アンケートの結果では、来場者の9割が市外の方であったということがございますので、今後も市外に向けた施設のPRに努めるとともに、市内の方にもリピートしていただけるような企画展やワークショップの開催を行っていきたいと考えております。

説明は以上になります。

【小野会長】

事務局からの説明は終わりました。

では、各取組ごとに見ていきたいと思います。

最初に資料の1ページ、文化財の指定・保護について、ご意見、ご質問があればお願いいたします。

これは、先月1月19日にお寺を回って文化財の現地視察を行いました。これについ

て今後の課題なども出てまいりました。

いかがでしょうか。

お寺を中心に回ってきましたけれども、前回2か寺、指定文化財には至らなかったんですけれども、実際に回ってみて、池田先生なんかはどうでしょうか、成果というか。指定には至らなかったけれども、こういう活動。

【池田委員】

それはやっぱり続けていかないと。ここに書いてあるように、お寺自身が、自分が持っているものは古いものはないんだよと言うんだけど、どの辺りを古いと言っているのか。それから、分からなくて新しいと思っていたものも、実はすごく重要な意味を持っていることもあるので、これは続けて行って、古くなくてもそのお寺が持っている資料とかそういうものを一回見させてくださいと。文書なんかは全然出てこなかったですよ。ああいうので文書なんかも出てくると、もっと面白いと思うんですよ。

植物はどうしたのと言ったら、増田先生、見たよ、でも全然古そうなものとかなかったからそのまんまにしておきましたなんて言われた。だからそういうのも見れるし。やっぱり見て。

だから、こういう活動で本当に地道に探すよりしようがないかなって思います。

【小野会長】

恐らくお寺は40～50あると思うんですけど、断られたところはしようがないにしても、いいですよと言ってくれたところはまだ多分あると思いますので、少しずつ続けていくということでやっていきたいと思います。

多分、その場で出てこなくても、アドバイスできるんですよ。この資料はこう保存してくださいねとか、このきらきらの、新しいそうに見えるけど古いですよとかって言えるので、この活動は続けていきたいと思います。

それ以外で、お寺以外で文化財をどう発掘していくかっていうと、どうなんでしょうか。どうなんでしょうね。

【池田委員】

蔵を持っているところは、たくさんあると思うんですけどもね。

蔵、どんどん壊しちゃうから、その中に入っているもの、多分そのときに一緒に捨てちゃうんじゃないかと思うんですけどね。本当は蔵をチェックしないといけないかなと思う。でも、あんなところに入ったら、何か底なし沼だからちょっと怖いんで。

【小野会長】

そうですね。そうすると、やっぱり市のホームページか新聞か、何かのときに、捨てる前に一報下さいと言って、市の方がチェックするのに写真だけでも撮っておくなり何かしておく。そういう何か窓口があるといいのかなとも思いました。

ほか、いかがですか。よろしいですか。

そうしましたら、続きまして、2ページの古文書・歴史に関する講座等の開催について、ご意見がございましたらお願いいたします。2ページから5ページですね。

いろいろな講座が行われていまして、特に歴史系の講座なんかはすごい人が来ているということがありました。

池田先生なんか一度。

【池田委員】

すみません、全然私意味が分からなくて、一体何を、どういう目的で、何するのかというのがいま一つ分からなくて、ちょっと何か話してくださいというだけで、この前行ったときのをちょっと、いいのかなと思って、それでこういうタイトルになっちゃったんですけど。

本当はちょっと違うんですよね。この狙いは多分、小牧市の中にある歴史のものをもっと皆さんに位置づけていかなきゃいけないというので。そうしたら、例えば、さっきあった涅槃図だとか誕生仏とか、そういうお寺とか寺院とか、そういうものできちんとやっておかないと、歴史分からないんだろうなということは思いました。絵画もたくさんあるので、そういうようなものを、小牧にはこんな絵画があるんだよというところを。私は、これはすごくアバウトに全般的な話をすればいいんだと思っちゃったのでしっちゃったんですけど、そうじゃなくて、もっと細かい話をしないといけないんだなということ、あのときちょっと思いました。

あと、信長学なんていうのもあって。毎年やっていらっしゃるんですか、信長学。

【藤堂委員】

アンコールがあって。

【池田委員】

信長だって、まだ彫刻絵画の面からいえばいっぱいあるので。信長ってすごい大きい仕事しているんで、そういうことも話さない。信長かぶれと言われるけど、信長の絵

画だって本当に大きいですもんね、あそこで方向性が大きく、絵画の歴史、信長が変えているから。変えているっておかしいんだけど、信長が選択した人が変えているというふうに思うんですけれども。そういうようなこともあるので、やっぱりもうちょっと幅広くおっしゃっていただけたらと。

【小野委員】

こういう活動はまた続けて。

【池田委員】

まだこれは続けてどんどんやっていただいて。

歴史講座っていうのがすごいですね。そういうのにすごい興味があつて。

【小野会長】

文化財巡りとかも15人とか。少数でも、やっぱり続けていくということが大切ですよ。

【池田委員】

あと、お子様が10人も入るのがあつた。

【小野会長】

そう。10に増えたんだと思って。

【池田委員】

2桁になったんだね。1桁だった。

今年なんか、大河とかで増やせたらいいのかもしれないですね。主演の女優さんだって、左利きなのを右利きで書いているっていうんだから。そのぐらい訓練しないとけないそうです。

字が読めるとね、やっぱり皆さんうれしいみたいです。小さい頃にそういうのはね、よくほら、昔、字が読めなくて代筆してもらったという話を聞いても、子供のイメージでは、何でこんな字が書けないんだって思っちゃうじゃないですか、小学校で習っている。ところが、ああいう崩し字だとか流れるような文字だったら、本当に代筆頼まないといけないんだなというね。そういうことが分かるだけでも、子供は面白いかなと思うんですよ。

【小野会長】

少人数でも、やる意味はありますよね。

【池田委員】

そうそう、やる意味あると思いますよ。これ、10人に増えただけでも本当にすごい。

【小野会長】

ほかにいかがでしょうか。

よろしいですか、次にいって。

では、続きまして、6ページの史跡小牧山主郭地区整備基本計画の推進につきまして、ご意見ございましたらお願いいたします。

【池田委員】

しゃべります。

小牧山の整備計画はすごく順調で、いいと思うんですが、道が分かんない、本当に。

案内がね、こっちは行けるよとかこっち駄目よとか。何かもうちょっと、一番下に、今ここ通れる道とか何かそういうのを書いておいてもらおうと選択して行けるんだけど、ある程度来ちゃって、行けないとかさ。

【小野会長】

あそこまで来て行けない。この前視察して、上まで来て行けなかったときの落胆は大きいだろうなって思いますよね。

【池田委員】

そう。下に今の状況、ここ通れます通れないっていう。それと、歴史館へ登る道は何本かあるはずなので、それも一応書いてもらったら。

ありますか。

【事務局（浅野）】

あります。

【池田委員】

すみません。下のほうに。

【中嶋委員】

あることはあるんですけど、例えばこういう時期はもうモデル、ここを通りなさいみたいな、麓のほうに強引に書いちゃったほうがいいと思うんですよ。ここも行けます、あそこも行けますじゃなくて、ここが一番いいですって誘導してしまうのが、間違いが少ないんじゃないかと思いますが。

【小野会長】

こちらはちょっと配慮いただくということで。

【池田委員】

せっかくやっつけていらっしゃるんだから。そういうので批判を受けちゃうとね。

【中嶋委員】

そうですね。坂道をかなり上がってからまた戻らないかんというのは、やっぱりきつかりょうと思います。

【小野会長】

それでは、この6ページはよろしいでしょうか。

【中嶋委員】

ちょっとだけいいですか。

大手道を今度やるっていうことですが、どんなふうを考えているんですか。

【事務局（浅野）】

大手道の調査、まだ計画の段階ですけれども、2か年に分けてやろうと思っております。

主には、今年度整備しているところもそうですけれども、最後の屈曲するところが、現状の道は結構くねくねとカーブを描くような形、S字のような形で登っていたものが、大きく岩盤を削って、直角といいますか、角、角、角というように道が、大手道が本来は信長の時代にあったということが分かっております。

で、先ほど申したカーブが、あとその下のほう2か所ございますので、そのあたりを

調査しまして、本来あった大手道がどこまで範囲が広がったのですとか、当時の地業ですね、岩盤を切っているのか、現況と変わらないのかというところを確認したいと思っております。

それに基づきまして、今後設計を組みまして、大手道、直線の部分はまだですけども、直線登ってきて右に折れるところから今現在整備をやっている第2工区のところまでの間の整備を先行して進めたいなと思っております。これによって、上がってきて、正しいルートを通っていきながら、最後に今現在やっているところを見ていただくと、石垣、岩盤、歴史館というところでもかなり展望が開けてきますので、先行してその部分をやりたいと考えております。

また、その部分の調査範囲ですとか場所につきましては、今後文化庁と協議させていただきまして、現状変更を進めていって、来年度調査していきたいと考えております。

以上です。

【中嶋委員】

それに関連してですが、今の説明であった、屈曲してからですね。真っすぐに行くと曲がってからの部分ですね。あそこは家康が造った城とその前の信長の城が重なっていますよね。ちょっとその辺難しいことがあるので、慎重に考えていただいたほうがいいのかな。信長の時代のものを復元してしまうと、家康の城跡が飛んでしまうというか壊してしまう可能性もあるので、ちょっと難しいところなので、慎重に検討していただければと思います。

【小野会長】

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、8ページにいきたいと思います。

8ページの史跡小牧山の歴史的価値や魅力の啓発につきまして、ご意見、ご質問ございましたらお願いいたします。

【富嶋委員】

れきしるのいろんな講座とかをやっただいて、大変に興味を持って皆さん参加していますし、そそられておられるというふうに思っています。

9ページから10ページにあります11月19日のジュニア講座なんかは、いわゆる出張講座というか出前講座という格好になっています。本校の校区まで来ていただいて講座を行ったという、大変面白い、いい試みだなと思っていますので、いろんな出張講

座、出前講座がまた企画されればいいかなと思っていますし。

加えていうと、学校にも来ていただいて、出前授業でこういうようなことをやっていただけるとさらに裾野が広がると思いますので、そんなメニューなんかはずらっとあって、選べるようになるといいかなと思いますので、よろしくお願いします。

【小野会長】

ほか、いかがでしょうか。

【中嶋委員】

質問1点いいですか。

今年の大河ドラマの効果ってどのくらいあるんですか。去年と比較して、歴史館とかれきしる、どのくらい増えましたか。教えてください。

【事務局（武市）】

特に歴史館、れきしるですね、入館者数がかなり増えております。昨年度と比較いたしまして、昨年度、歴史館ですと、12月から休館をいたしましたので11月までの比較になるんですけども、11月末現在で約50%の増、150%歴史館で増えております。れきしるも、こちらは12月末で比較をしておりますけれども、182%増加ということで、かなり多くの方にお越しいただいている状況があります。

以上です。

【小野会長】

かなり効果があったんですね。すごいです。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(3) 令和6年度教育委員会基本方針重点施策について

【小野会長】

それでは、今度は議題(3) 令和6年度教育委員会基本方針重点施策につきまして、事務局の説明を求めます。

【事務局（浅野）】

では、令和6年度教育委員会基本方針重点施策につきましてご説明させていただきます。

資料は資料3、A4の1枚ものになっていますが、こちらをご覧ください。

先ほど、資料1でもご審議いただきましたものと見比べていただくと分かりいいですが、このうちの具体的な取組と内容について記載がございます。この具体的な取組は書いておりませんが、内容ですね、これに基づきまして、令和6年度、先ほど達成状況等々を説明させていただきましたが、こういった事業を進めていく指針になるものでございます。

4点ございまして、数は変わっておりません。

まず1つ目が、文化財の指定・保護ということで、内容につきましては、新たに保護すべき文化財等を見いだす調査を行い、指定・保護を進めますということで、文化財課の事業になります。

2つ目、こちらも変わっておりませんが、古文書・歴史に関する講座等の開催ということで、小牧市の歴史や文化財への興味・関心を高めるため、古文書や歴史に関する講座の開催をはじめ、文化財巡りや歴史資料の展示・解説などを行いますとございます。

3つ目ですが、史跡小牧山主郭地区整備基本計画の推進ということで、令和7年度の完成を目指し、史跡小牧山主郭地区のうち、小牧山歴史館周辺の石垣復元等の史跡整備を進めていますと。令和6年度につきましては、歴史館の北東側の整備工事を行います。また、先ほど申しましたように、大手道の整備に向けた発掘調査を令和6年度は行う予定をしております。

最後ですが、史跡小牧山の歴史的価値や魅力の啓発ということで、小牧山の歴史的価値や魅力について、小牧山を来訪された方により理解していただけるよう、小牧山歴史館及びれきしるこまきにおいて、発掘調査の成果を周知する企画展示あるいは講座等を開催していきたいという内容になっております。

以上になります。

【小野会長】

ありがとうございます。事務局からの説明は終わりました。

それでは、具体的な取組に対する内容につきまして、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

では、提示していますこの計画書で承認いただいたということで、よろしく願いいたします。

最後お願いします。

【事務局（武市）】

では、事務局から。

今、来年度重点的に行っていく基本目標の4点ご承認いただいたということで、この後、計画、事務局で策定していくことになろうかと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

あと、先ほど令和5年度の実績ということで点検評価いただきました。今日いただいたご意見等も踏まえまして、今後、点検評価委員会等、教育委員会の中に開催してまいりますので、そういった意見も踏まえながら点検評価して、また来年度のこの計画に反映していきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

4 その他

【小野会長】

それでは最後ですかね、4. その他がございます。

事務局から何かございますでしょうか。

お願いいたします。

【事務局（浅野）】

愛知県指定の天然記念物でありますけれども、大草のマメナシ自生地がございます。以前、この委員会でもご審議いただきまして、保存活用計画はつくっていただきましたが、その中でありました、自生地内にあります搬入された盛土、それから、その上に植樹された樹木については撤去するという方針を立てていただいております。その周りの「太良まめなしの里」整備工事に合わせまして、今年に入りましてから、1月2月ですが、除去工事を行いまして、全て除去が完了しております。あと、整備に当たりまして、マメナシの育成に支障となる樹木も大分切っておりますので、雰囲気も大分変わっております。またご機会があるときに見ていただきたいというのと、その観察会ですね、今、計画ですが、3月30日の土曜日午前中に計画をしておりますので、また資料等できましたらご案内していきますが、ぜひご覧いただければと思っております。

以上です。

【小野会長】

ありがとうございます。

委員の先生方からほかにも何か、報告、連絡ございますでしょうか。

よろしいですか。

それでは、本日の議題の審議が終了しましたので、進行を事務局へお返しいたします。

【事務局（武市）】

小野会長、委員の皆様、本日はどうもありがとうございました。

以上をもちまして本日の議事日程は全て終了いたしました。慎重な審議をいただきまして、誠にありがとうございました。

これもちまして、令和5年度第3回小牧市文化財保護審議会を閉会いたします。ありがとうございました。